



“十二五”职业教育国家规划教材
经全国职业教育教材审定委员会审定



总顾问 皮细庚 总主编 张厚泉 副总主编 (日) 水冈实乃里

新实用职业日语 综合教程

4

学生用书

本册主编 ◇ 孔繁志



华东师范大学出版社



“十二五”职业教育国家规划教材
经全国职业教育教材审定委员会审定



总顾问 皮细庚 总主编 张厚泉 副总主编 (日) 水冈实乃里

新实用职业日语 综合教程

4

学生用书

本册主编 ◇ 孔繁志

本册副主编 ◇ 孙 伟

编 者 ◇ [日]川口兴有 唐晓可 张 羽 金雪梅 王珍珍



华东师范大学出版社

图书在版编目(CIP)数据

新实用职业日语综合教程学生用书. 4/孔繁志主编.

—上海:华东师范大学出版社,2014. 10

日语专业系列教材

ISBN 978-7-5675-2708-9

I. ①新… II. ①孔… III. ①日语—高等职业教育—教材 IV. ①H36

中国版本图书馆 CIP 数据核字(2014)第 255471 号

新实用职业日语 综合教程 学生用书 4

总 主 编 张厚泉

本册主编 孔繁志

责任编辑 孔 凡

装帧设计 孔薇薇

出版发行 华东师范大学出版社

社 址 上海市中山北路 3663 号 邮编 200062

网 址 www.ecnupress.com.cn

电 话 021-60821666 行政传真 021-62572105

客服电话 021-62865537 门市(邮购)电话 021-62869887

地 址 上海市中山北路 3663 号华东师范大学校内先锋路口

网 店 <http://hdsdcbs.tmall.com>

印 刷 者 浙江省临安市曙光印务有限公司

开 本 787×1092 16 开

印 张 18.25

字 数 386 千字

版 次 2015 年 4 月第 1 版

印 次 2015 年 4 月第 1 次

书 号 ISBN 978-7-5675-2708-9/H·742

定 价 40.00 元(含盘)

出 版 人 王 焰

(如发现本版图书有印订质量问题,请寄回本社客服中心调换或电话 021-62865537 联系)

使用说明

• 教材定位

本系列教材是按照“教育部高职高专其他语言类教学指导委员会”公布的《高职高专日语专业教学大纲》(2012年)要求、根据国家对高职院校的战略定位、针对高职学生的培养要求和特点编写的一套高职日语精读系列教材。

• 编委会

本教材编委会根据教育部对“十二五”职业教育教材建设要“跨区域、跨学校联合编写教材”的精神,“坚持行业指导、企业参与、校企合作的教材开发机制”,以上海、北京等地高校、高职高专的日语教材专家、与日语用人单位密切相关的跨国公司方面人员为主,共同组成了编写组,为编写出符合教育部要求的高质量教材提供了保障。

总顾问

皮细庚(上海外国语大学教授、博士生导师)

总主编

张厚泉(东华大学教授、东京农工大学客座教授、博士)

副总主编

水冈实乃里 东华大学外语学院客座研究员、杏林大学(日)非常勤讲师

编委会成员

中方

皮细庚 上海外国语大学教授、博导

张厚泉 东华大学教授、东京农工大学客座教授、博士

孔繁志 首都师范大学教授、博士

孙 伟 首都师范大学副教授、博士

张明明 上海工商外国语职业学院副教授

王智新 华东师范大学中日职业教育研究中心常务副主任、教授、博士
日方

水冈实乃里 东华大学外语学院客座研究员、杏林大学(日)非常勤讲师

小林 孝郎 拓殖大学(日)教授

野元千寿子 原立命館アジア太平洋大学教授

吉田 修作 原卡西欧上海贸易有限公司 总经理

● 编写说明

本系列教材课文的框架、情节、场景、语法点由总主编会会同各册主要编写人员设计,课文和会话的初稿由中日双方的日语专家共同编写或改编,并由总顾问、总主编、副总主编根据高职日语专业教学大纲调整、修改。

本套教材在充分考虑到高职高专的教学培养目标、学习对象的特点、理论与时间的课时比例、教学课时数等基本情况之外,具有以下特点。

由学生用书、教师用书、练习与测试三个系列各 5 册对应组成,打造了一个学生学习、教授传授、练习巩固的综合性立体平台。

近年,日语教材越编越厚,高等院校的日语教材几乎与职业教育的教材无甚区别,失去了学历教育、职业教育教材应有的定位和特色。本套教材在还原高职日语专业教材以本色方面做出了较大的努力。

1. 学生用书

在框架设计上,主要注重编选跨文化比较的知识点。在设计故事情节、场景设置、语言的自然运用等方面,尽量选编贴近高职学生的生活和兴趣点的话题,反映了时代变化,如目前中国和日本两国使用范围很广的“微信”和“LINE”、“智能手机”等。

中级三册增加了文本学习,在内容方面,选编既有深度又有广度,充满积极向上的人生观、价值观、工作观的文章,以帮助学生平稳过渡到实习、工作阶段。

传统的语法和词语的解释则部分放进“教师用书”里,力求减轻学生学习负担。

2. 教师用书

对每课的教学目标、语法与词汇等知识要点、教学建议、补充资料、教学安排等,提供具有教案功能的建议、参考答案及译文。为教师提供教学抓手。

3. 练习与测试

供学生课堂上补充练习或课堂外自测使用,单册内有综合测试,可供教师考试出题时参考。题型编写时我们注重:

- 结合“高职高专日语专业教学大纲”培养要求,设计应用型练习·测试题型;
- 结合 JLPT(日本日语能力考试)出题标准考试题型,设计模拟测试题型;
- 结合 J. TEST(实用日语考试)出题标准和考试题型,设计模拟测试题型。

4. 配套光盘、教学 PPT 课件

本套综合教程配套录音光盘和教学 PPT 课件,为教师提供专业的教学支撑服务。

● 编写特色

通过故事情节和场景的设置,使学生自然而然进入故事中去,正确理解和掌握语法要点和词语,注重从跨文化比较的视角培养学生的语言交际能力、本国文化传播能力,达到能够自然地运用日语进行交流、从事相关职业工作的目的。

1. 语法学习

以传统的“学校语法”为基础,兼顾介绍日本对外日语教学的语法术语。在语法学习方面,从比较文化角度寻找跨文化的差异点,并将其在适当的场景中自然地反映到语法学习中去。如:在学习初级语法的「V(て形)から V」时候,是「朝ご飯を食べてから歯を磨く」,还是「歯を磨いてから朝ご飯を食べる」,反映了中日两个民族的完全不同的生活习惯。如果只是「朝ご飯を食べてから学校へ行く」之类的话,就无法反映多文化的差异。中级学习时亦贯彻了此项宗旨。使学生在学习语法知识点的同时,理解并掌握跨文化知识,达到提高学生的跨文化交际能力、进而提高传播本国文化的日语能力的教学目的。

2. 词汇学习

日语“学校语法”最重要的概念是“文节”,所谓“文节”,是指自立词(名词、动词等)与后续的助词组成的发音单位。日语语法中有“文论”和“词论”之分,本套教材从语言学习的角度考虑,对词义不仅需要进行解释,对有一定使用难度的词语从“词论”角度,即词是如何构成“文节”的角度,对词的实际使用时的搭配,通过课文和练习的例句进行讲解。

3. 结合考级考试

从高职高专的特点出发,在达到“高职高专日语专业教学大纲”要求的基础上,注重国家人力资源和社会保障部的职业日语考试的要求,兼顾了 J. TEST(日语实用考试)、JLPT(日本日语能力考试)出题标准和考试形式。

场景设置

练习演剧、学习发表会、能力考试结果发表、邀请日本企业的社长演讲、留学说明会等。与日本学生网上交流,请教日语问题、讨论中日流行语和敬语的使用等问题。刘晶晶打算毕业后去日本继续深造。

主要人物

日本人社長： 国松昭平(くにまつ しょうへい)、50 歳、国松服装株式会社社長。

日本人学生： 藤原拓也(ふじわら たくや)、22 歳、東京モダン芸術学院 3 年生。

日本人留学生： 青木淳子(あおき じゅんこ)23 歳、川南外語工商職業学院 3 年生、中国語専攻。

日本人教師： 川口隆一(かわぐち りゅういち)、45 歳、川南外語工商職業学院外国人教師。

中国人学生： 劉晶晶(女、22 歳)をはじめとする川南外語工商職業学院 3 年生の学生たち。

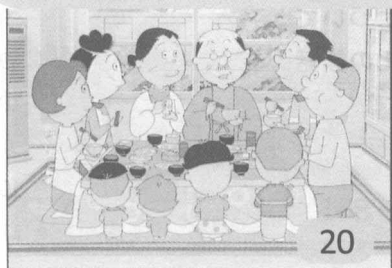
目次

第1課 技術と能力



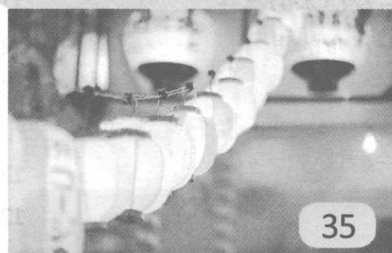
本文1	テレビとことば	1
会話1	進路相談	3
本文2	技術が変えたテレビ	5
会話2	エントリーシートの書き方	6
学習ポイント		8
豆知識と拡充内容	就活トップ10は全て銀行・保険。これでこの国は成長するのだろうか。	13
練習問題		16

第2課 人間関係



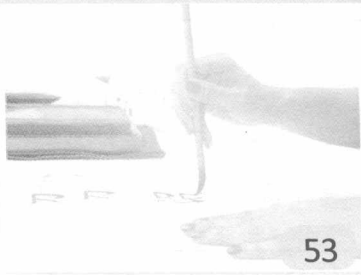
本文1	相手の悪意を知るには己の悪意を知れ	20
会話1	手紙とメールの書き方	22
本文2	自分ばかり損をしていると思うな	23
会話2	外国人留学生との交流会について	24
学習ポイント		26
豆知識と拡充内容	最初に相手の利害から考えよ	29
練習問題		31

第3課 「聴く」と「聞く」



本文1	聴くということ	35
会話1	辞書の使用	37
本文2	聞くは一時の恥、聞かぬは一生の恥	38
会話2	辞書購入の依頼	40
学習ポイント		41
豆知識と拡充内容	「よい聞き手」になるために	47
練習問題		49

第4課 日本語の文法とは



53

本文 1	言語の働きとは何か	53
会話 1	劉さんの日本語文法の間違い	55
本文 2	まぎらわしい同音語	57
会話 2	敬語の使用について	58
学習ポイント		60
豆知識と拡充内容	「世間」と「社会」はどう違うか?	66
練習問題		69

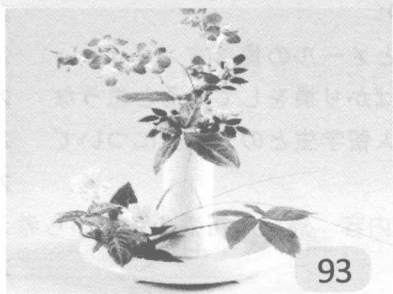
第5課 さまざまな日本人



73

本文 1	日本型ニート	73
会話 1	インターネットの接続	75
本文 2	クレマーの増加	77
会話 2	自己中心的な人	78
学習ポイント		80
豆知識と拡充内容	困難な時代を生きる君たちへ	86
練習問題		89

第6課 文化



93

本文 1	文化とは何か	93
会話 1	国松社長の訪中	95
本文 2	匂いについて	97
会話 2	食文化の談話	99
学習ポイント		101
豆知識と拡充内容	日本人はなぜ靴をぬぐのか	108
練習問題		111

第7課 事故からの思考



115

本文 1	風化させず備え強固に	115
会話 1	原発事故をめぐる	117
本文 2	変わらない本の存在	119
会話 2	グローバル的思考	120
学習ポイント		122
豆知識と拡充内容	未来へ向けて過去を読み直す	124
練習問題		126

第8課 勉強について



130

本文 1	いつでもどこでも勉強できるようにしなさい	130
会話 1	眠気を覚ます	132
本文 2	若者の新しい才能と熱意を愛し、学び続けよう	133
会話 2	学生相談	135
学習ポイント		137
豆知識と拡充内容	関西弁のほうがボキャブラリーが豊富?	142
練習問題		145

第9課 困難や不安と向き合う



149

本文 1	ある時間、待ってみてください	149
会話 1	健康管理を大切に	151
本文 2	苦しみと文明社会	153
会話 2	発展するための調査	154
学習ポイント		156
豆知識と拡充内容	なぜ礼儀作法が必要なのか	162
練習問題		164

第10課 必要なものと



168

本文 1	何が必要で何が必要でないか	168
会話 1	成績以上のもの	170
本文 2	問題発見能力とは、ノーと言うこと	172
会話 2	理解を深める	173
学習ポイント		175
豆知識と拡充内容	薩摩艦隊の標識の「日の丸」が日本の国旗になった	177
練習問題		179

第11課 日本の食生活



183

本文 1	悪食こそ日本人のオリジナリティの証明	183
会話 1	日本料理が食べたい	185
本文 2	禅宗が日本料理の基本を作った	187
会話 2	食事のマナー	189
学習ポイント		191
豆知識と拡充内容	「走りまわる」だけでなぜ「御馳走」なのか	194
練習問題		196

第12課 大切なこと

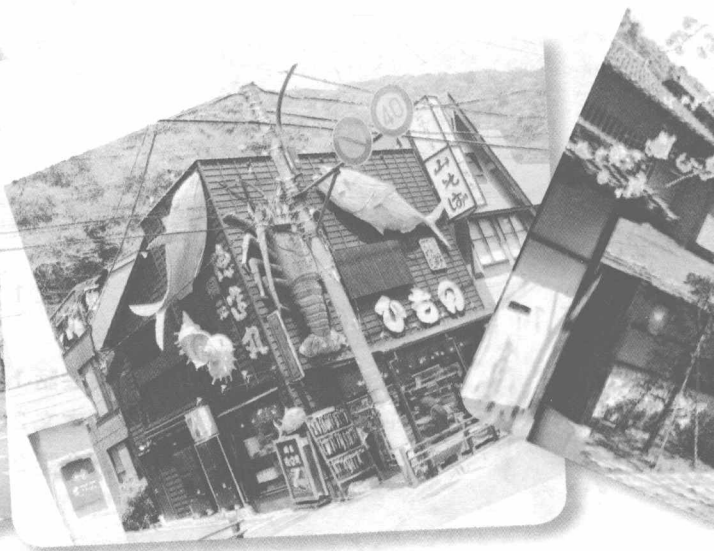


本文 1	聞き上手と話し上手	200
会話 1	携帯をいじっているよりは実会話をしよう	202
本文 2	命をかけて事を成す	203
会話 2	行動力をつけよう	205
学習ポイント		207
豆知識と拡充内容	本田宗一郎のことば	211
練習問題		213

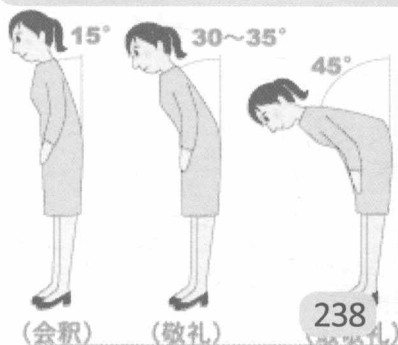
第13課 表と裏



本文 1	おもてとうら(一)	217
会話 1	外見と中身	219
本文 2	おもてとうら(二)	221
会話 2	科学技術の進歩	223
学習ポイント		224
豆知識と拡充内容	どうも	232
練習問題		234



第14課 思考と行動の方法

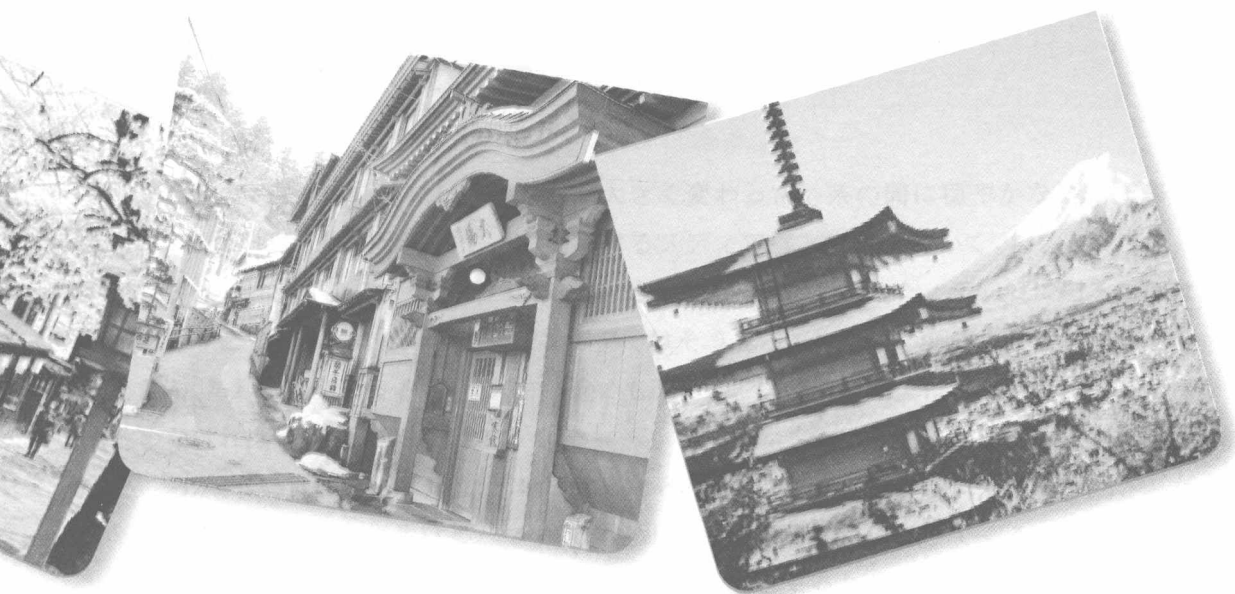


本文1 「スピーディな仕事」にかけて	238
会話1 練習と上達	240
本文2 勉強のできる人とできない人	241
会話2 日本語勉強の相談	243
学習ポイント	245
豆知識と拡充内容 日本人はなぜ水に流したが るのか	250
練習問題	252

第15課 歴史と未来



本文1 歴史は役に立つ	256
会話1 卒業後について	257
本文2 歴史は未来をいましめる	259
会話2 卒業に際して	260
学習ポイント	262
豆知識と拡充内容 日本人は大きく分けると十 二のタイプがある!	266
練習問題	272



第1課 技術と能力

【文型】

1. 中国のファッション産業の地位は国際的に決して高いといえない。
2. 誰でも経験することだから、緊張することはない。
3. ふだんは穏やかそうな高僧のその表情とことばには、テレビならではの迫力があつた。
4. 遅ればせではあるが、これによってテレビのニュースに、当事者が自分の「声」と「表情」と「ことば」で語る姿が日常的に登場するようになった。
5. 能力があっても、必ずしも活躍できるとは限らない。

本文1 テレビとことば

八十年代初めを境に、テレビのことばが大きく変わった。茶の間に穏やかな口調で語りかけていたテレビが、賑やかにしゃべり続けるメディアへと変わっていく。

テレビは、以前は「よそ行き」の世界、非日常的な「ハレの場」であった。テレビに出ることは緊張を伴うことであった。今でも年配者の多くはそう思っている。テレビカメラが訪ねてきたとたん、あわてて身づくろいをし、言葉遣いも改める。「ハレの場」では、服装や態度、ことばも改めなければ、という心理がはたらく。

ところが、若い世代にとっては、テレビは日常そのものである。「ハレ」に対する「ケ」、「ふだん着の世界」である。小学生はピースサインを出しながらカメラに寄ってくる。若者たちにマイクを向ければ即座に答えを返す。緊張したり、かしこまったりする対象ではない。使うことばも、流行語や、若者ことば、友だちことばである。^{註1}

ラジオとテレビも、最初は「スタジオ」という閉鎖空間からスタートした。そこは、外界の音を遮断する空間であり、放送用の大型機材を備えた場所であった。この非日常的な空間に足を運び、放送に出演できるのは、ごく限られた人たちであった。性能の十分でないマイクは発音の明瞭な放送者を要求し、取り直しのきかない生放送は、手際の良い立ち振る舞いができる出演者を求めた。

当初テレビに出演できるのは、これらの能力を身につけた職業人が中心であった。トレーニングを積んだ俳優や歌手、評論家や文化人でも「話のうまい」人が選ばれた。アナウンサーという職業もその一つで、高度な表現能力が求められた。こうしたプロの出演者たちには、明瞭な発音はもちろん、豊富な語彙、適切なことばの選択、状況に応じた瞬時の判断や時間のキープなどさまざまな専門性が求められた。こうして限られた人たちの表現の場であったテレビは、やがて大衆に場を提供するようになる。

「よそ行き」から「ふだん着」への変化には、急速な技術革新が大きく関わっている。次々に開発される「小型ビデオ機器」が生活の中に入り込んでいく。スタジオに足を運ばなくてもカメラが出向いてくる。だれもが気軽にテレビに出演できる。そこではことばの訓練、卓越した表現力も求められない。多少「話下手」でもビデオの編集がそれを救ってくれる。技術革新と小型機材の開発で、テレビは、だれもが「日常ことば」で語れるメディアとなった。さらに視聴者参加型の番組が増えたことも大衆化に拍車をかけた。

注1: 若者や友達の間で使われる独特の表現はメディアを介して流行した例もあり、2007年の流行語大賞にノミネートされたKY、つまり空気が読めないのローマ字表記である。中国でも同じような現象が見られ、「MMは妹妹で女子や彼女、GGが哥哥で男子や彼氏の意味で使われている。

新出単語

表記/読み/ アクセント	品詞/意味
境(さかい)①	[名] 界限
穏や(おだやか)②	[形動] 平静
口調(くちょう)①	[名] 语调
賑やか(にぎやか)②	[形動] 熱鬧
よそ行き(よそゆき)①	[名] 外出
伴う(ともなう)③	[自他五] 伴随
年配者(ねんぱいしゃ)③	[名] 年长的人
慌てる(あわてる)①	[自一] 慌张
改める(あらためる)④	[他一] 改变
普段着(ふだんぎ)②	[名] 便服
寄る(よる)①	[自五] 靠
即座(そくざ)①	[副] 立即
畏まる(かしこまる)④	[自五] 尊敬
スタジオ(studio)①②	[名] 工作室
閉鎖(へいさ)①	[名・他サ] 封闭
遮断(しゃだん)①	[名・他サ] 阻断
明瞭(めいりょう)①	[形動] 清楚
取り直す(とりなおす)④①	[他五] 重新做

表記/読み/ アクセント	品詞/意味
手際(てぎわ)③	[名] 方法、技巧
俳優(はいゆう)①	[名] 演員
高度(こうど)①	[形動] 高度
豊富(ほうふ)①①	[形動] 丰富
語彙(ごい)①	[名] 词汇
瞬時(しゅんじ)①	[名] 瞬间
判断(はんだん)①	[名・他サ] 判断
やがて①	[副] 不久
関わる(かかわる)①③	[自五] 关系到
小型(こがた)①	[名] 小型
入り込む(はいりこむ)③	[自五] 进入
出向く(でむく)②	[自五] 前往
卓越(たくえつ)①	[名・自サ] 卓越
自在(じざい)①②	[名・形動] 自如
救う(すくう)①	[他五] 救
視聴者(しちようしゃ)②	[名] 观众
拍車をかける(はくしゃをかける)	[连语] 加快步伐

会話 1

進路相談

(同じ学院に通う劉晶晶、秦振寧、郭美玲は進路について、同学院の川口隆一先生に相談しに来た。)

.....

劉晶晶: せっかく日本語を学んでいるので、日系企業の就職や日本の大学に留学するなどをしたいものですが、今はみんなが不安を抱え、将来の進路については心配でなりません。日本と中国の事情に詳しい川口先生にお話を伺えたらと思い、みんなで参りました。

川口先生: いや、教え子の進路の話題なのだから、教師として、社会人の先輩としてアドバイスするのは当然だと思っているよ。今日は進路を決める一つの考え方を話そうと思う。

劉晶晶: ええ、ぜひお願いいたします。

川口先生: まずは自分が何をやりたいのか、問題意識を持つことだ。

秦振寧: 問題意識ですか。

川口先生: そう、中国と日本は同じように経済発展し、大量消費社会になっている。同時に高齢化も進み、2030年には中国も高齢者人口が一気に増加する見込みであることは明白だよ。先を見通すことに加え、日々のニュースや発表されている資料を見極める力が大切になってくる。

劉晶晶: わたくしは授業の中で、『ファッション文化社会学』や『20世紀ファッションの文化史』などの専門書に目を通したことがあります。現在、中国のファッション産業の地位は国際的に決して高いといえないと分かりました。

川口先生: なぜだと思う。

劉晶晶: わたくしは、その原因の一つは「人材育成に問題がある」と考えています。そこで、日本の大学に編入し、そして大学院に入り、もっと深く勉強したいと思いました。

川口先生: 中国にもファッション関係の大学があるのに、なぜ日本なのか考えているかね。日本へ留学する利点を自分なりにまとめていることが大切だよ。

劉晶晶: はい。日本のファッション業界では「創造」「技能」「戦略」が重要視されており、服装の歴史やデザインだけでなく、生地を生産から経営管理に至るまでのさまざまな知識が学べます。将来的には、機会があれば、日本のファッション業界で身を持って体験したいとも思っています。

川口先生: 劉さんの考えはよく分かった。この分野では文化学園大学と文化ファッション大

学院大学が強い。自分の将来、しいては中国のファッションの将来にも挑戦してみる価値があり、なかなか得がたい経験を積むこともできるだろう。さて、秦君はどう考えているかね。

秦振寧：いよいよ就職活動を始めなくてはいけないと思うと、もう心配でなりません。わたくしは中国のマスコミに入社したいです。

川口先生：誰でも経験することだから、緊張することはない。ただ、マスコミは、人気があるから競争が激しいね。どうしてマスコミ希望なのかな。

秦振寧：実は内モンゴル自治区出身で、国営メディアのアナウンサーである白岩松さんに憧れています。わたくしは技術面での取材から中日関係を考えたいのです。これからは仕事をしながら、科学技術の専門知識をもっと増やしていきたいと考えています。

川口先生：白岩松が永田町や経団連、中国の中南海を取材拠点にしている。それに対し、君は科学技術の分野で取材したいという点が貴重だ。あまり、活躍している人を知らないね。この分野では日経ビジネスという雑誌社で詳しく取り上げているので、一度、目を通すことを勧める。

秦振寧：確か週刊誌ですよ。科学技術関連の記事が少ない印象だったので購読したことはありませんが、中国のマスコミ受験でも参考にしたいと思います。ありがとうございます。

川口先生：郭さんは進路について何か言いたいことがある？

郭美玲：まだはっきりせず、焦っています。何をしたいかもちょっと…

川口先生：チャンスというのは、あっという間に通り過ぎていくものだ。学生の中には進路を決めかねている人がいるようだが、身近なことから自分が何をしたいのかを考えてみることだ。とにかく、しっかり考えて、早めに行動に移ったほうがいいよ。

郭美玲：はい、ご意見を参考に考えます。

川口先生：もう遊ぶどころじゃないんだよ。しっかり考えてきてね。さて、そろそろ時間が来たようだし、みなさんも勉強などで忙しいだろうから、今日はこのくらいにしておこうか。

学生一同：今日は本当に貴重なご意見、ありがとうございました。また、よろしく願います。

新出単語

表記/読み/ アクセント	品詞/意味
進路(しんろ)①	[名] 前進の方向、道路
日系(にっけい)①	[名] 日本系统、日资
親身(しんみ)①	[名・形动] 亲人、亲密
見込み(みこみ)①	[名] 希望、计划、预定
見通す(みとおす)①	[他五] 预测、预料
見極める(みきわめる)①④	[他一] 看清、认清
編入(へんにゅう)①	[名・他サ] 编入、插入
技能(ぎのう)①	[名] 技能
戦略(せんりやく)①	[名] 战略

表記/読み/ アクセント	品詞/意味
生地(きじ)①	[名] 衣料
永田町(ながたちょう)④	[专] 永田町(地名)
経団連(けいだんれん)③	[名] 经济团体联合会
中南海(ちゅうなんかい)③	[名] 中南海
拠点(きょてん)①	[名] 据点
週刊(しゅうかん)①	[名] 周刊
購読(こうどく)①	[名・他サ] 购阅
焦る(あせる)②	[自五] 着急

本文 2 技術が変えたテレビ

テレビの初期、ニュース取材には16ミリのフィルムが使われていた。このためニュースは、記者が書いた原稿をアナウンサーが読み、そこに音のないフィルム映像を添える方式が長く続いた。政治家の発言や催し物の主催者のあいさつ、事故の目撃者の証言も、いったん文字にしたものをアナウンサーの声で伝えていた。

ビデオ映像は、ニュースの当事者が「現場」で自分の「表情」「声」「ことば」で語る姿を伝えることができる。ビデオ機器が配備され始めたころ、京都の名利の僧侶が観光税の導入に反対して過激なことばを発しているニュースがあった。ふだんは穏やかそうな高僧のその表情とことばには、テレビならではの迫力があった。「音」を伴わないフィルムでは表しきれず、また文字に置き換えた「書き原稿」でも表しきれなかった。

報道分野での小型機材の導入はアメリカでは70年代後半から本格化した、日本では、ニュース収集のシステムとしてキー局に小型ビデオ機器が配備されたのは70年代に入ってからである。遅ればせではあるが、これによってテレビのニュースに、当事者が自分の「声」と「表情」と「ことば」で語る姿が日常的に登場するようになった。

小型ビデオは緊急報道だけではなく、さりげない日常の中で人々が発することばもそのまま伝える機能をもつ。小回りのきく機材なら、どんな山奥でもビルの谷間でも相手のホームグラウンドに入っていける。相手が生活の場で語る「ことば」と「表情」には、文字には置き換えられない説得力がある。テレビが報じることばの幅は大きく広がった。

報道分野で ENG (Electronic News Gathering) と呼ばれた取材手法は EFP (Electronic Field Production)、つまり電子機器を使った屋外での番組制作手法として一般番組にも広がった。